



薩南諸島初記録のカワハギ科ウマヅラハギ属 3 種 (アズキウマヅラハギ・センウマヅラハギ・ゴイシウマヅラハギ), および *Cantherhines* に対する標準和名ハクセイハギ属 (新称) の提唱

松本達也¹・前川隆則²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)

k8476135@kadai.jp (corresponding author)

² 株式会社前川水産 (奄美市)

³ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 01 September 2021

Revised 05 September 2021

Accepted 06 September 2021

Published 06 September 2021

DOI 10.34583/ichthy.12.0_12

Tatsuya Matsumoto, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2021. First records of three species of the genus *Thamnaconus*, *T. fijiensis*, *T. multilineatus*, and *T. tessellatus*, from the Satsunan Islands, Japan, and a new standard Japanese name for the genus *Cantherhines* (Tetraodontiformes: Monacanthidae). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 12: 12–19.

Abstract

Three species of the genus *Thamnaconus* (Tetraodontiformes: Monacanthidae) are recorded for the first time from the Satsunan Islands (including the Osumi, Tokara, and Amami Islands), Japan, on the basis of collected specimens. A single specimen of *T. fijiensis* Hutchins and Matsuura, 1984 [238.1 mm standard length (SL)], characterized by numerous dark brown blotches on the body, including around anus, was collected from off Amami-oshima island, Amami Islands. A single specimen of *T. multilineatus* (Tanaka, 1918) (201.6 mm SL), characterized by numerous dark brown longitudinal lines on the body, was collected from off Yokoate-jima island, Tokara Islands. Two specimens of *T. tessellatus* (Günther, 1880) (246.4–255.9 mm SL), characterized by numerous blotches on the body, except for around anus, were collected from off Iwo-jima island, Osumi Islands, and Amami-oshima island. These specimens were described herein in detail. In addition, a new standard Japanese name is proposed for the monacanthid genus *Cantherhines*.

カワハギ科ウマヅラハギ属 (Monacanthidae: *Thamnaconus*) は、腰骨後縁に 2 対で構成された合計 4 個の不動の鞘状鱗をもつこと、雌雄ともに背鰭と臀鰭が前方に向かうほど高くなること、第 1 背鰭棘起部が眼窩中央より後方に位置すること、第 1 背鰭棘側面に側方を向く小突起が多数存在すること、第 1 背鰭棘の後方背面に浅い溝があること、脊椎骨数が 19 であることなどの特徴をもつ

(Hutchins, 1977, 2001; Matsuura, 2021). 日本に生息するウマヅラハギ属魚類はアズキウマヅラ *T. fijiensis* Hutchins and Matsuura, 1984, サラサハギ *T. hypargyreus* (Cope, 1871), キビレカワハギ *T. modestoides* (Barnard, 1927), ウマヅラハギ *T. modestus* (Günther, 1877), センウマヅラハギ *T. multilineatus* (Tanaka, 1918), およびゴイシウマヅラハギ *T. tessellatus* (Günther, 1880) の 6 種が知られている (林・萩原, 2013; Matsuura, 2017). なお、センウマヅラハギは従来センウマヅラハギ属 *Cantherhines* に分類されていたが、腰骨後縁に 2 対で構成された合計 4 個の不動の鞘状鱗をもつことなどの形態的特徴に基づき、ウマヅラハギ属に帰属された (Hutchins and Randall, 1982; Randall, 2007; Matsuura, 2017).

日本産ウマヅラハギ属魚類のうち、アズキウマヅラは国内からは紀伊半島沖や小笠原諸島から、センウマヅラハギは房総半島から土佐湾にかけての本州太平洋岸や富山湾、東シナ海から、およびゴイシウマヅラハギは相模灘から鹿児島湾にかけての本州太平洋側沿岸や富山湾、沖縄島からそれぞれ記録されている (林・萩原, 2013).

2021 年 5 月に、奄美大島近海において 1 個体のアズキウマヅラが釣獲された。また、同年 6 月にトカラ列島横当島近海において、1 個体のセンウマヅラハギが釣獲され、さらに同年 5 月と 7 月には奄美大島近海と大隅諸島硫黄島近海にてそれぞれ 1 個体のゴイシウマヅラハギが釣獲された。これらの標本は、それぞれ琉球列島におけるアズキウマヅラの初記録、薩南諸島におけるセンウマヅラハギとゴイシウマヅラハギの初記録となるため、ここに詳細を報告する。なお、センウマヅラハギが *Cantherhines* から *Thamnaconus* に変属されたことに伴い、前者に適用されていた標準和名「センウマヅラハギ属」を「ハクセイハギ属 (新称) *Cantherhines*」に改称する。

材料と方法

計数・計測方法は、Matsuura (1980) とそれを一部改変した Matsuura and Chiba (2013) にしたがった。体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。標準体長は体長または SL と表記した。生鮮時の体色の記録は、ホルマ



Fig. 1. Fresh specimen of *Thamnaconus fijiensis* (KAUM-I. 157270, 238.1 mm SL) from Amami-oshima island, Amami Islands, Satsunan Islands, Japan.

リン固定の前に撮影された標本のカラー写真に基づいて記載した。標本の作製，登録，撮影，および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館に保管され，上記の生鮮時の写真は同館データベースに登録されている。本文中で使用されている研究機関略号は，KAUM (鹿児島大学総合研究博物館)，KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館)，MNHN (フランス国立自然史博物館)，NMNB (台湾国立海洋生物博物館)，NMST (国立科学博物館)，および USP (南太平洋大学応用科学研究所) である。

Thamnaconus fijiensis Hutchins and Matsuura, 1984

アズキウマツラ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 157270, 体長 238.1 mm, 奄美群島奄美大島北西沖の大島新曽根, 水深 150–250 m, 2021 年 5 月 27 日, 一本釣り, 境 喜美夫。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は前後方向に長い楕円型で強く側扁する。背縁は吻端から第 1 背鰭起部まで緩やかに上昇し，第 1 背鰭起部から第 2 背鰭起部にかけて体軸とほぼ平行になりつつわずかに上昇し，第 2 背鰭起部から尾鰭基底上端にかけて緩やかに下降する。第 1 背鰭後方の背面は，浅い溝状の凹

面となっている。腹縁は下顎先端から腰骨後端の鞘状鱗まで緩やかに下降し，そこから臀鰭起部にかけて急激に上昇する。臀鰭起部から尾鰭基底下端にかけては緩やかに上昇する。口裂は小さく，上顎に 5 本，下顎に 3 本の先端が尖った歯が並ぶ。鰓孔は裂孔状を呈し，先端は眼の先端より前方に位置し，後端は眼の中央よりやや後方に位置する。眼と瞳孔はともに正円形。互いに近接した前鼻孔と後鼻孔が，眼の前縁前方に位置する。第 1 背鰭起部は眼の中央直上に位置する。第 1 背鰭の第 1 棘は太くて直線的で，側面のやや後方には多くの小棘が縦に 1 列に並ぶ。第 2 背鰭起部は臀鰭起部よりもわずかに前方に位置し，第 2 背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。第 2 背鰭の背縁は起部から第 8 軟条まで上昇し，そこから緩やかに下降する。臀鰭起部は第 2 背鰭第 6 軟条直下に位置する。臀鰭の腹縁は起部から第 7 軟条にかけて下降し，そこから緩やかに上昇する。胸鰭基底の上端と下端はいずれも眼の中央直下に位置する。胸鰭は短く，後縁は丸みを帯びる。胸鰭基底上端は口よりも下方に位置する。腰骨後端には左右 2 対の不動の鞘状鱗を有する。尾鰭は丸みを帯び，中央部は後方へ膨出する。肛門は正円形を呈し，臀鰭起部の前方に位置する。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体は一様に淡い茶色を呈する。体側には瞳孔よりも小さな黒褐色の斑紋が多数存在する。頭部や背側に位置する斑は，体側のものよりも小さい。眼から吻部にかけて 4 本の淡い茶色の筋が伸びる。体背部に

は、眼から第2背鰭基底後端付近にかけて2本の淡い茶色の筋が伸びる。第2背鰭基底部と臀鰭基底部付近には3つの褐色斑が存在する。円みを帯びた目立つ雲状の褐色斑が、肛門の周囲を囲むように存在する。第1背鰭は灰白色で基部付近は茶褐色。第1背鰭の鰭膜は黄色。胸鰭、背鰭、臀鰭の各軟条は黄色がかった白色を呈し、鰭膜は白。鞘状鱗は灰褐色。尾鰭の鰭条は淡い茶色で鰭膜は白色、尾鰭には背腹方向に伸びる2筋の湾曲した褐色帯がある。虹彩は茶色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 日本、台湾、ニューカレドニア、およびフィジーから記録されている (Hutchins and Matsuura, 1984; Matsuura and Tyler, 1997; Tang, 2020)。日本国内では、これまでに紀伊半島 (Matsuura, 1999) と小笠原諸島 (林・萩原, 2013) から記録されている。なお、林・萩原 (2013) は小笠原諸島における本種の記録の根拠を記していないが、父島列島父島から得られた1標本 (KPM-NI 14020) に基づくものと思われる。本研究によって、本種の琉球列島における分布も確認された。

備考 大島新曾根産の標本は、体側に多数の暗褐色斑があり、頭部の斑が体側の斑よりも小さいこと、体背側の褐色斑が直線状に縦列すること、暗褐色斑が肛門を取り囲むこと、および尾鰭に2本の暗色横帯があることなどが、

Hutchins and Matsuura (1984) や Matsuura (1999) が示したアズキウマヅラ *Thamnaconus fijiensis* の特徴と一致したため本種に同定された。

アズキウマヅラは体側に多数の暗褐色斑を有することにより、ゴイシウマヅラハギと西インド洋に分布する *T. fajardoi* Smith, 1953 の2種を除く同属他種と識別される。アズキウマヅラは尾鰭に2本の暗色帯があることや肛門付近に暗褐色の斑紋があることによってゴイシウマヅラハギと、頬の褐色斑が体側の褐色斑よりも小さいことや体背側の褐色斑が直線状に縦列することによって *T. fajardoi* と識別される (Hutchins and Matsuura, 1984; Matsuura, 1999)。

Thamnaconus fijiensis は Hutchins and Matsuura (1984) により、フィジー産の1標本 (USP 4541) に基づいて新種として記載され、その後、Matsuura (1999) は和歌山県白浜から採集された1標本 (NMST-P 55158) に基づいて新標準和名アズキウマヅラを提唱した。Tang (2020) は上記の2標本、および Matsuura and Tyler (1997) によって報告されたニューカレドニア産1標本 (MNHN 1995-528) の文献情報と、台湾産1標本 (NMMB-P 33671) の計4標本に基づいて本種の形態的特徴を示した。大島新曾根産標本の各鰭条数は、Tang (2020) の示した値と完全に一致した。大島新曾根産標本の計測形質も概ね Tang (2020) の値の範囲

Table 1. Counts and measurements (as % of SL) of *Thamnaconus fijiensis*, *T. multilineatus*, and *T. tessellatus* from the Satsunan Islands, Japan.

	<i>T. fijiensis</i>		<i>T. multilineatus</i>		<i>T. tessellatus</i>	
	Amami-oshima island KAUM-I. 157270	Yokoate-jima island KAUM-I. 157942	Amami-oshima island KAUM-I. 156862	Iwo-jima island KAUM-I. 158646		
Standard length (SL; mm)	238.1	201.6	255.9	246.4		
Counts						
Dorsal-fin rays	II, 33	II, 32	II, 33	II, 36		
Anal-fin rays	32	31	31	33		
Pectoral-fin rays	13	13	13	13		
Caudal-fin rays	i, 10, i	i, 10, i	i, 10, i	i, 10, i		
Measurements (as % of SL)						
Body depth	39.5	39.0	31.8	33.7		
Oblique body depth	41.9	40.3	33.4	35.7		
Body width	13.0	14.1	11.3	11.0		
Head length	32.3	30.6	29.4	29.7		
Snout length	27.1	26.1	25.3	23.9		
Eye diameter	8.5	9.2	9.0	7.8		
Interorbital width	9.2	9.2	8.6	8.8		
Gill-opening length	10.5	11.0	8.2	8.5		
Snout to origin of 1st dorsal fin	30.6	32.1	32.0	29.3		
Snout to origin of anal fin	71.5	68.5	64.6	66.2		
Caudal-peduncle depth	9.6	9.1	7.7	7.5		
Caudal-peduncle length	10.3	11.1	14.4	12.3		
1st dorsal-spine length	20.8	26.2	20.0	23.1		
Interdorsal space	29.4	33.6	27.2	26.2		
Longest 2nd dorsal-fin ray length	13.5	12.6	12.5	11.6		
2nd dorsal-fin base length	32.8	33.4	30.9	34.5		
Longest anal-fin ray length	12.0	12.2	11.4	10.7		
Anal-fin base length	29.1	28.6	26.7	28.3		
Caudal-fin length	21.1	23.8	19.9	22.5		
Pectoral-fin length	10.5	10.7	9.6	9.5		



Fig. 2. Fresh specimen of *Thamnaconus multilineatus* (KAUM-I. 156862, 201.6 mm SL) from Yokoate-jima island, Tokara Islands, Satsunan Islands, Japan.

内に一致したが、尾柄高（大島新曾根産標本では体長の9.6%、台湾産の1標本では8.8%）、背鰭前長（大島新曾根産標本では体長の30.6%、台湾産とニューカレドニア産の2標本では33.3–35.9%）、第2背鰭基底長（大島新曾根産標本では体長の32.8%、4標本では33.4–34%）、第1背鰭棘長（20.8%、21–27.1%）、胸鰭長（10.5%、10.9–13.2%）、および尾柄長（10.3%、8.0–9.8%）において若干の相違がみられた（Tang, 2020；本研究）。本種は調査標本の数が極めて少ないことから、本研究ではこれらを本種の種内変異の範囲内であると判断した。

大島新曾根産標本は水深150–250 mから採集された。本種はこれまでに水深107–210 mから採集記録がある（Hutchins and Matsuura, 1984; Matsuura and Tyler, 1997; Matsuura, 1999; Tang, 2020）。アズキウマヅラの国内からの採集記録は、「分布」の項目で記述したとおりであり、これまで琉球列島からの本種の記録は知られていない。したがって本研究の記載標本は、琉球列島からの本種の初めての記録となる。

Thamnaconus multilineatus (Tanaka, 1918)

センウマヅラハギ

(Fig. 2; Table 1)

標本 KAUM-I. 157942, 体長201.6 mm, トカラ列島横当島沖, 水深200 m, 2021年4月21日, 一本釣り, 境 昭一・境 喜美夫。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合をTable 1に示した。体は前後方向に長い楕円型で強く側扁する。背縁は吻端から第1背鰭起部まで緩やかに上昇し、第1背鰭起部から第2背鰭起部までは体軸とほぼ平行となり、第2背鰭起部から尾鰭基底部上端にかけて緩やかに下降する。第1背鰭後方の背面は、浅い溝状の凹面となっている。腹縁は下顎先端から腰骨後端の鞘状鱗まで緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけて上昇する。臀鰭起部から尾鰭基底部下端にかけては緩やかに上昇する。吻はやや前方に突出しており、口裂は小さく、上顎に5本、下顎に3本の先端の尖った歯が並ぶ。鰓孔は裂孔状を呈し、先端は眼の前縁下に位置し、後端は眼の中央より後方に位置する。眼と瞳孔はともに正円形。互いに近接した前鼻孔と後鼻孔が、眼の前縁前方に位置する。第1背鰭起部は眼の中央直上に位置する。第1背鰭の第1棘は太くて直線的で、側面のやや後方に多数の小突起が1列に並ぶ。第2背鰭起部は臀鰭起部よりも前方に位置し、第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端やや前方に位置する。第2背鰭の背縁は起部から第5軟条先端まで上昇し、そこから緩やかに下降する。臀鰭起部は第2背鰭第9軟条直下に位置する。臀鰭の復縁は起部か

ら第5軟条後端にかけて下降し、そこから緩やかに上昇する。胸鰭基底の上端と下端はいずれも眼の中央より後方に位置する。胸鰭は短く、後縁は丸みを帯びる。胸鰭基底上端は口裂のやや下方に位置する。腰骨後端には左右2対の不動の鞘状鱗を有する。尾鰭は丸みを帯び、後縁中央部は後方へ膨出する。肛門は正円形を呈し、臀鰭起部の前方に位置する。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 2) — 体は淡い茶色を呈する。体側には淡い茶色の幅広い2本の帯があり、下方の縦帯は眼から第2背鰭基底後端まで走り、上方の縦帯は第1背鰭棘の基部から第2背鰭基底後半まで伸びる。胸鰭基底付近から臀鰭基底と尾柄部にかけて、黄褐色の縦線が多数伸びる。腹面は一様に茶色がかった白。肛門は黄褐色の班に囲まれる。第1背鰭と鞘状鱗は灰褐色を呈し、第1背鰭鰭膜は黄色。胸鰭、第2背鰭、臀鰭、尾鰭の各鰭条は黄褐色を呈し、胸鰭の鰭膜は透明、第2背鰭、臀鰭、尾鰭の鰭膜は白。尾鰭に模様は存在しない。虹彩は赤みがかった茶色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 ミャンマー、西沙群島、東シナ海、韓国（済州島）、日本、フィリピン（パナイ島）、およびインドネシア（スラウェシ島）から記録されている (Randall, 2007; 山田ほか, 2007; Peristiwady et al., 2011; 林・萩原, 2013; Matsuura, 2017; Myoung et al., 2018; Psomadakis et al., 2019)。日本国内からはこれまでに相模灘、熊野灘、土佐湾、富山湾、五島列島、および東シナ海から記録されており (林・萩原, 2013)、本研究によって薩南諸島トカラ列島からも確認された。

備考 横当島産の標本は体側に多数の縦線をもつことが Matsuura (2017) が示したセンウマヅラハギ *Thamnaconus multilineatus* の特徴と一致したため本種に同定された。

センウマヅラハギの国内からの採集記録は、「分布」の項目で記述したとおりであり、これまで薩南諸島からの本種の記録は知られていない。したがって、横当島産標本は、薩南諸島からの本種の初めての記録となる。

Cantherhines に対する標準和名ハクセイハギ属 (新称)
センウマヅラハギは従来センウマヅラハギ属 *Cantherhines* に帰属されていたが (林・萩原, 2013; Matsuura, 2014)、腰骨後端に不動の左右2対からなる鞘状鱗をもつことから、ウマヅラハギ属 *Thamnaconus* に分類された (Hutchins and Randall, 1982; Randall, 2007; Matsuura, 2017; Psomadakis et al., 2020; Fricke et al., 2021)。そのため、*Cantherhines* に適用されていたセンウマヅラハギに由来する和名「センウマヅラハギ属」は不適正となった。*Cantherhines* のタイプ種は *Monacanthus (Cantherhines) nasutus* Swainson 1839 [現在は *Cantherhines sandwichiensis* (Quoy and Gaimard, 1824) の新参異名] であり、*C. sandwichiensis* の日本からの記録

はない。現在、日本産 *Cantherhines* には、ハクセイハギ *C. dumerilii* (Hollard, 1854)、メガネウマヅラハギ *C. fronticinctus* (Günther, 1866)、およびアミメウマヅラハギ *C. pardalis* (Rüppell, 1837) の3種が知られている。本研究では日本魚類学会標準和名検討委員会 (2020) の条 4.2.2 に基づき、3種のなかで国内で最も広域に生息する普通種であるハクセイハギから *Cantherhines* に対して新標準和名ハクセイハギ属を提唱する。

***Thamnaconus tessellatus* (Günther, 1880)**

ゴイシウマヅラハギ

(Fig. 3; Table 1)

標本 KAUM-I. 156862, 体長 255.9 mm, 奄美群島奄美大島北西の大島新曾根, 水深 200 m, 2021年4月21日, 一本釣り, 境 喜美夫; KAUM-I. 158646, 体長 246.4 mm, 大隅諸島硫黄島沖, 水深 132 m, 2021年7月14日, 一本釣り, 田澤太我。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は前後方向に長い楕円型で強く側扁する。背縁は吻端から第1背鰭起部まで緩やかに上昇し、第1背鰭起部から第2背鰭起部までは体軸とほぼ平行となり、第2背鰭起部から尾鰭基底部上端にかけて緩やかに下降する。第1背鰭後方の背面は、浅い溝状の凹面となっている。腹縁は下顎先端から腰骨後端の鞘状鱗まで緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけて上昇する。臀鰭起部から尾鰭基底部下端にかけては緩やかに上昇する。口裂は小さく、上顎に5本、下顎に3本の先端の尖った歯が並ぶ。鰓孔は裂孔状を呈し、先端は眼の前端直下、後端は眼の中央より後方に位置する。眼と瞳孔はともに正円形。互いに近接した前鼻孔と後鼻孔が、眼の前縁前方に位置する。第1背鰭起部は眼の中央直上に位置する。第1背鰭の第1棘はやや細くて直線的で、側面やや後方には多数の小棘が縦に1列に並ぶ。第2背鰭起部は臀鰭起部よりもわずかに前方にあり、第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。第2背鰭の背縁は起部から第8軟条先端まで上昇し、そこから緩やかに下降する。臀鰭起部は第2背鰭第6軟条直下に位置する。臀鰭の腹縁は起部から第7軟条後端にかけて下降し、そこから緩やかに上昇する。胸鰭基底の上端と下端はいずれも眼の中央より後方に位置する。胸鰭は短く、後縁は丸みを帯びる。胸鰭基底上端は口よりも下方に位置する。腰骨後端には左右2対の不動の鞘状鱗を有する。尾鰭は丸みを帯び、後縁中央部は後方へ膨出する。肛門は正円形を呈し、臀鰭起部の前方に位置する。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 3) — 体は茶色がかった灰白色を呈し、体側背部は腹部よりもやや強く茶色がかかる。体側には瞳孔よりも小さな黒褐色の斑紋が不規則に散在す

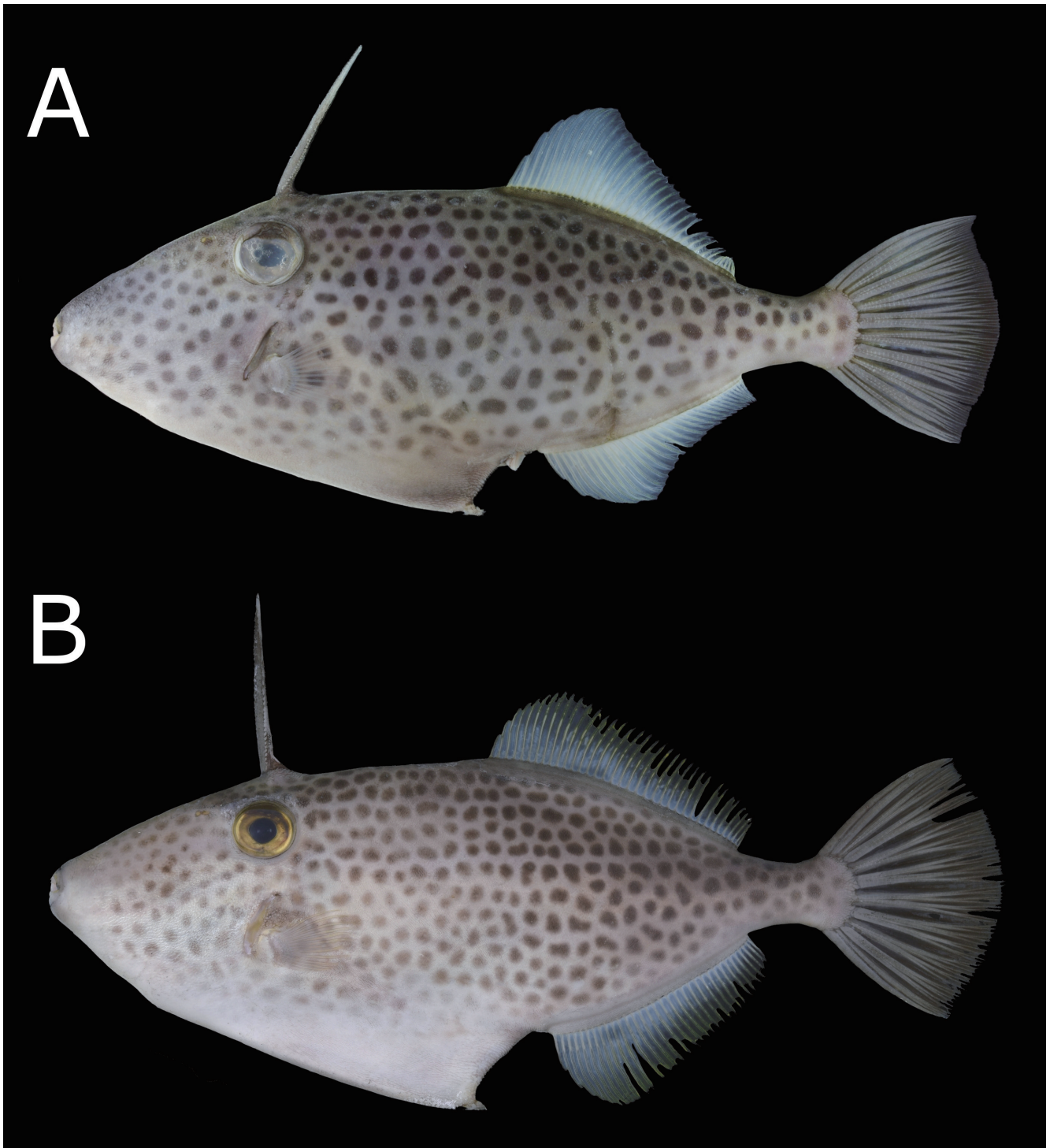


Fig. 3. Fresh specimen of *Thamnaconus tessellatus* (A: KAUM-I. 158682, 255.9 mm SL, Amami-oshima island, Amami Islands, Satsunan Islands, Japan; B: KAUM-I. 158646, 246.4 mm SL, Iwo-jima island, Osumi Islands, Satsunan Islands, Japan).

る。頭部と体下部では斑紋の色彩は薄くなり、腹面付近では消失する。第1背鰭と鞘状鱗は灰褐色を呈し、第1背鰭の鰭膜は黒褐色。胸鰭、背鰭、臀鰭の各軟条は黄褐色を呈し、鰭膜は白。尾鰭は一様に灰白色で模様は存在しない。虹彩は金色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 韓国（済州島）、日本、東シナ海、中国（海南島、広東省、香港、南沙諸島）、フィリピン（パナイ島）、マレーシア、インドネシア（スラウェシ島）、オーストラリア北岸、およびニューカレドニアから記録されている（Matsuura and Tyler, 1997; Ni and Kwok, 1999; Hutchins, 2001; 山田

ほか, 2007; Peristywady, 2008; 林・萩原, 2013; Li et al., 2016; Park et al., 2017)。日本国内からはこれまでに富山湾、相模湾、小笠原諸島、土佐湾、日向灘、鹿児島湾、宇治群島、東シナ海大陸斜面上部、および沖縄本島から記録されており（Randall et al., 1997; 伊串・稲村, 2010; 林・萩原, 2013; Iwatsuki et al., 2017; 岩坪, 2017; 畑ほか, 2018)、本研究により大隅諸島と奄美群島からも確認された。

備考 大島新曾根と硫黄島から得られた標本は、腹部と肛門付近を除く体全体に黒褐色斑が多数散在すること、尾鰭に模様が無いことなどの特徴が、Matsuura and Tyler

(1997) が示したゴイシウマヅラハギ *Thamnaconus tessellatus* の特徴に一致したため本種に同定された。ゴイシウマヅラハギは体側に多数の暗色斑を有することにより、アズキウマヅラとサラサハギの2種を除く同属他種と識別される (Matsuura and Tyler, 1997; Tang, 2020)。ゴイシウマヅラハギは尾鰭に模様がなく、肛門付近に褐色斑が存在しないことによりアズキウマヅラと識別され (Tang, 2020)、体側の斑数が多いことや生鮮時、斑紋が黒褐色であることから、斑数が少なく、黄褐色斑であるサラサハギと識別される (Matsuura and Tyler, 1997)。

大島新曾根と硫黄島の標本はそれぞれ水深 200 m と 132 m から採集された。本種はこれまで水深 140–490 m から採集された記録がある (Matsuura and Tyler, 1997; 畑ほか, 2018)。ゴイシウマヅラハギの国内からの採集記録は、「分布」の項目で記述したとおりである。奄美群島の魚類相を網羅的に調査した Nakae et al. (2018) や本村ほか (2019)、大隅諸島三島の魚類相を調査した本村ほか (2013) においてもゴイシウマヅラハギは記録されていない。したがって本研究で報告した標本は大隅諸島や奄美群島を含む薩南諸島からの本種の初めての記録となる。

謝 辞

鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアの皆さまには、標本の作製、撮影、登録おいてご協力いただいた。鹿児島大学大学院連合農学研究所の藤原恭司氏、鹿児島大学大学院農林水産学研究所の古橋龍星氏、Ichthy 編集委員の畑 晴陵氏、および国立科学博物館の松浦啓一氏には本稿に対し適切なお助言をいただいた。また、鹿児島大学理学部理学科の田澤太我氏には硫黄島産のゴイシウマヅラハギを提供していただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

Fricke, R., Eschmeyer, W. N. and Van der Laan, R. 2021. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](#) (30 Aug. 2021)

畑 晴陵・川間公達・本村浩之. 2018. 宇治群島から得られた魚類3種の記録. *Nature of Kagoshima*, 44: 257–264. [URL](#)

林 公儀・萩原清司. 2013. カワハギ科, pp. 1712–1721, 2236–2237. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

Hutchins, J. B. 1977. Descriptions of three new genera and eight new species of monacanthid fishes from Australia. *Records of the Western Australian Museum*, 5: 3–58. [URL](#)

Hutchins, J. B. 2001. Monacanthidae, filefishes (leatherjackets), pp. 3929–3779. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals.* FAO, Rome. [URL](#)

Hutchins, J. B. and K. Matsuura. 1984. Description of a new monacanthid fish of the genus *Thamnaconus* from Fiji. *Records of the Western Australian Museum*, 11: 387–391. [URL](#)

Hutchins, J. B. and Randall, J. E. 1982. *Cantherines longicaudus*, a new filefish from Oceania, with a review of the species of the *C. fronticinctus* complex. *Pacific Science*, 36: 175–185. [URL](#)

伊串祐紀・稲村 修. 2010. 富山湾沿岸で捕獲されたカワハギ科魚類. *魚津水族館報告* (2 pp.; no pagination). [URL](#)

岩坪洗樹. 2017. カワハギ科, pp. 276–280. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む 奄美 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)

Li, Y., J. Zhang, R. Zhang, P.-Q. Song, Z.-H. Zhong, Y.-P. Wang and L.-S. Lin. 2016. Fish diversity in southwestern seas of Nansha Islands and the mouth of Beibu Bay. *Biodiversity Science*, 24: 166–174. [URL](#)

Matsuura, K. 1980. A revision of Japanese balistoid fishes. I. Family Balistidae. *Bulletin of the National Science Museum, Series A (Zoology)*, 6: 27–69. [URL](#)

Matsuura, K. 1999. First record of the rare filefish, *Thamnaconus fijiensis* (Tetraodontiformes: Monacanthidae) from Japan. *Ichthyological Research*, 46: 216–218.

Matsuura, K. 2014. Taxonomy and systematics of tetraodontiform fishes: a review focusing primarily on progress in the period from 1980 to 2014. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-014-0444-5 (11 Nov. 2014), 62: 72–113 (26 Jan. 2015).

Matsuura, K. 2017. Monacanthidae, pp. 231–234. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran and S. Ishikawa (eds.) *Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines.* The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. [URL](#)

Matsuura, K. 2021. A record of the rare filefish, *Thamnaconus garretti* (Fowler, 1928), collected around Midway Island, central Pacific (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Monacanthidae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 47: 31–35. [URL](#)

Matsuura, K. and S. N. Chiba. 2013. First record of the filefish, *Pseudomonacanthus macrurus* (Bleeker, 1856), from Yoronjima Island, Ryukyu Islands (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Monacanthidae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 39: 211–213. [URL](#)

Matsuura, K. and J. C. Tyler. 1997. Tetraodontiform fishes, mostly from deep waters, of New Caledonia. *Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle*, 174: 173–208. [URL](#)

本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)

本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一. 2013. 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp. [URL](#)

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2019. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp.

Myoung S. H., J.-K. Kim and H. J. Kwun. 2018. New record of *Cantherhines multilineatus* (Tanaka, 1918) (Pisces: Monacanthidae) from Jeju Island, Korea. *Korean Journal of Fisheries and Aquatic Sciences*, 51: 199–202. [URL](#)

- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. [URL](#)
- Ni, L.-H. and K.-Y. Kwok. 1999. Marine fish fauna in Hong Kong waters. *Zoological Studies*, 38: 130–152. [URL](#)
- Park, J.-H., S. H. Jang, D. G. Kim, J.-M. Jeong, S. Kang and J.-K. Kim, 2017. First record of a filefish, *Thamnaconus tessellatus* (Monacanthidae: Tetraodontiformes) from Jeju Island, Korea. *Korean Journal of Ichthyology*, 29: 277–281. [URL](#)
- Peristiwady, T. 2008. Occurrence of deep-water leatherjacket fish *Thamnaconus tessellatus* (Gunther, 1880) (Tetraodontiformes: Monacanthidae) from Bitung, Indonesia. *Jurnal Iktiologi Indonesia*, 8: 41–50. [URL](#)
- Peristiwady T, P. Makatipu, K. Takaendengan and F. Ahmad. 2011. First record of *Cantherhines multilineatus* (Tanaka, 1918) (Tetraodontiformes: Monacanthidae) in Indonesia. *Makara Sains*, 14: 135–139. [URL](#)
- Psomadakis, P. N., T. Htun, B. C. Russell and T. T. Mya. 2019. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. FAO species identification guide for fishery purposes. FAO and MOALL, Rome. xvii + 694 pp., 63 pls. [URL](#)
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: i–v + 1–74, pls. 1–19.
- Randall, J. E. 2007. Reef and shore fishes of the Hawaiian Islands. Sea Grant College Program, University of Hawai‘i, Honolulu. xiv + 546 pp.
- Tang, C.-N. 2020. New record of a rare monacanthid, *Thamnaconus fijiensis* (Tetraodontiformes: Monacanthidae), from northern Taiwan. *Platax*, 17: 77–84. [URL](#)
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野市. lxxiii + 1262 pp.